

定期作況報告

(第3号 平成18年7月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温は平年より1.5 低く、最低気温は平年より1.1 高かった。降水量は平年より31.4 多かった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より26.3時間少なく、平年対比51%であった。夏日(最高気温25 以上)は延べ2日であった。

7月上旬：最高気温は平年より2.9 高く、最低気温も平年より0.8 高かった。降水量は平年より38.4mm少なかった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より32.2時間多く、平年対比196%であった。夏日は延べ8日であった。

7月中旬：最高気温は平年より0.8 高く、最低気温も平年より2.2 高かった。降水量は平年より58.8mm多かった。降水日数は平年と同じであった。日照時間は平年より14.6時間少なく、平年対比66%であった。夏日は延べ8日であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	22.6	24.1	1.5	26.5	23.6	2.9	26.3	25.5	0.8	25.1	24.4	0.7
最低気温()	14.2	13.1	1.1	14.9	14.1	0.8	17.9	15.7	2.2	15.7	14.3	1.4
平均気温()	17.9	18.4	0.5	20.4	18.5	1.9	21.4	20.2	1.2	19.9	19.1	0.8
降水量()	52.0	20.6	31.4	3.0	41.4	38.4	106.5	47.7	58.8	161.5	109.7	51.8
降水日数(日)	6	3	3	2	4	2	5	5	0	13	12	1
日照時間(h)	27.7	54.0	26.3	65.6	33.4	32.2	27.9	42.5	14.6	121.2	129.9	8.7

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや不良

事由：幼穂形成期は平年に比べ中苗で4日、成苗で2日遅く、止葉期では各品種・苗とも平年より1～2日遅かった。7月20日現在の主稈葉数は成苗「きらら397」が平年に比べ0.4枚多く、中苗「きらら397」および中苗「ほしのゆめ」は平年より0.2～0.4枚少なかった。 当たり茎数は各品種・苗とも少なく、平年対比で75～83%であった。草丈は中苗、成苗とも平年より若干高かった。

以上、7月の好天により生育は回復傾向にあるものの、依然として 当たり茎数が平年より少ない。最高分けつ期を過ぎた現在、茎数が平年の穂数を既に下回っており、収量構成要素不足が懸念される。したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期(月・日)			止葉期(月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7. 4	6.30	4	7.18	7.17	1
ほしのゆめ 中苗	7. 2	6.28	4	7.17	7.15	2
きらら397 成苗	6.29	6.27	2	7.16	7.14	2

注1) 平年値は平成11～17年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

- 2) 印は平年に比べて「遅」を示す。
- 3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2
- 4) 止葉期：全茎の40～50%の止葉が展開した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数(枚)			茎数(本/)				草 丈()		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.1	11.3	0.2	677	907	230	75	68.1	66.8	1.3
ほしのゆめ 中苗	10.0	10.4	0.4	744	925	181	80	74.9	72.8	2.1
きらら397 成苗	11.5	11.1	0.4	707	849	142	83	74.0	71.0	3.0

注1) 平年値は平成11～17年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

- 2) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦 : やや不良

事由： 出穂期は平年より2日遅く、成熟期は、直前に雨天が続いたこともあり4日遅かった。成熟期における稈長は平年よりやや長かったが、穂長はやや短く、穂数が平年より少ない。
したがって、目下の作況はやや不良である。

表4 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	6.12	6.10	2	7.21	7.17	4

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本 /)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホ ク シ ン	88	84	4	7.8	8.5	0.7	604	664	60

注1) 平年値は、前7か年中、平成13年、14年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

3) 大豆 : 平年並

事由：開花期は平年並であった。気温が高く経過したため、主茎長、主茎節数は平年並に回復した。分枝数は平年を下回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.12	7.12	0
トヨコマチ	7.11	7.11	0
ユキホマレ	7.11	7.11	0

品 種 名	主 茎 長 ()			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	57	54	3	10.2	9.8	0.4	5.5	6.9	1.4
トヨコマチ	63	60	3	11.0	10.8	0.2	5.0	6.9	1.9
ユキホマレ	56	57	1	10.0	10.4	0.4	4.9	5.8	0.9

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、17年を除く5か年の平均値。ただし、「ユキホマレ」については平成13年から17年の5か年の平均値で、参考値である。

2) は平年より減を示す。

4) 小 豆 : やや良

事 由：7月に入り高温に経過し、7月第3半旬にはまとまった降雨があったため、生育は回復し、現時点での主茎長、本葉数及び分枝数とも平年を上回っている。「サホロショウズ」の開花期は平年並みであった。

したがって、目下の作況はやや良である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月.日)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ エリモショウズ	7.20	7.20 7.22	0

品 種 名	主 茎 長 ()			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	28.5	26.4	2.1	7.9	7.4	0.5	6.3	5.0	1.3
エリモショウズ	27.9	25.8	2.1	8.6	7.8	0.8	6.0	4.9	1.1

注1) 平年値は、前8か年中平成15年(最豊)、16年(最凶)、12年(茎疫病発生)を除いた5か年の平均値。

2) 「エリモショウズ」は開花期に至っていない。

5) ばれいしょ : 平年並

事由：開花始は平年より3日遅かった。気温がやや高く経過し、日照がやや少なかったため徒長ぎみの生育となり、7月18～19日連日のスコール状の降雨により著しく倒伏した。過去6年間の試し掘りの平均と比較すると、株当たり上薯数は3個少ないが、10a当たり上薯収量およびでん粉価は同程度であった。茎長は平年に比べ大幅に上回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品種名	開花始(月日)			茎長(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	6.25	6.22	3	59.1	42.5	16.6

注1) 平年値は、前7か年中、平成11年、16年を除く5か年の平均値。